



■ 平成 26 年度全国学力・学習状況調査の結果について

全国の小学 6 年生と中学 3 年生を対象に国語と算数・数学の 2 教科で実施されている「全国学力・学習状況調査」の本年度の本町の結果についてお知らせします。

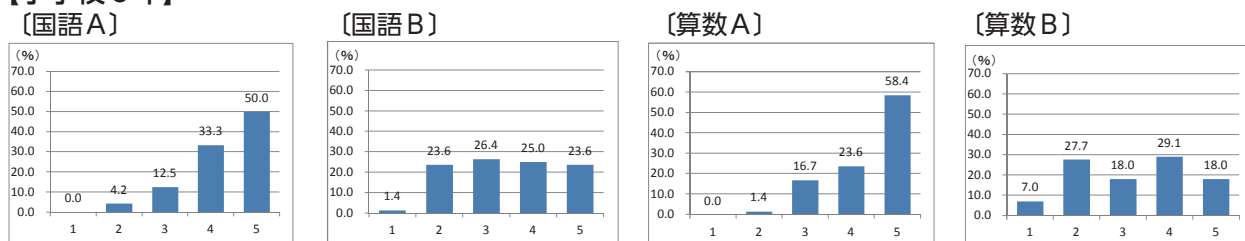
【本町の結果について】

- 町全体としては国語と算数・数学ともに、ほとんどが県の平均を超え、全国の平均に近い結果となりました。
- 小学校では、基礎的な知識を問う問題（A 問題）は、国語・算数とも全国平均を上回りましたが、応用的な問題（B 問題）で個人差が課題となりました。
- 中学校では、国語が基礎的な知識を問う問題（A 問題）と応用的な問題（B 問題）ともに全国平均を下回り、県平均に近い結果となりました。数学は、基礎的な知識を問う問題と応用的な問題のどちらも全国平均を大きく上回りました。

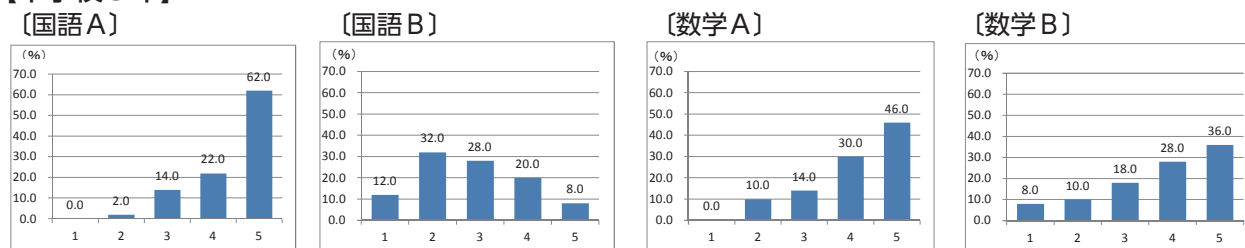
【各学年の傾向について】

下のグラフの見方： 児童生徒の正答率を 5 段階に分けて表示したものです。
右側の数値が高ければ高いほど、正しく答えられた人数が多いことになります。

【小学校 6 年】



【中学校 3 年】



【学力向上のために】

● 学校では…

- 一人一人の子どもたちが自分なりの方法で答えを出すことができるように時間と方法を工夫すること、授業のまとめや見届けを十分に行うなど、よりよい授業をつくるために全校で取り組んでいる「授業基本モデル」等の取組を今後も続けていきます。
- 本町の大きな課題となる「応用力」の向上のために、話し合い活動や表現活動を十分に行いながら、一人一人のつまずきにしっかりと応えていく授業を積極的に進めていきます。

● 家庭では…

- 今回の調査結果では、「家庭学習の充実」がとても重要であるということも再確認されました。学習の見届けや励ましなどの家庭での継続的な取組と、家庭と学校とのさらなる連携が求められます。
- 学力調査と同時にを行った児童生徒へのアンケート結果から、スマートフォン等の利用や基本的な生活習慣に関する課題がみられます。家庭でのルールづくりと見届けが学力向上にはとても大切ですので、積極的な取組と徹底をお願いします。